

W I N G E S S A Y

DENTAL WING Co.,LTD

—2018年3月

☆まもなく3月、春ですね。ここ数年、本格的な雪に見舞われることがありますが、こうやって季節も移ろいます。3月は卒業のシーズンでもあり、次なるステップが待ち受けます。春の陽光に、草花もそろそろ動きを始める季節です。私達も、心身共に爽やかで、暖かい日々を送りたいものです。

☆皆様も一度はお聞きになったことがあるかと思いますが、儒教の大切な古典である「四書五経」。孔子が生まれる前から存在していたのが五経。孔子以降に生まれたのが四書と言われます。その五経は、易経・書経・詩経・礼記・春秋の五つを言います。一番古いのが易経です。経という字は、一般的に筋道とか物事の理という意味がありますが、五経のように経書といわれるものは人間や社会にとって最も重要な基本原則が書かれています。易経といいますと、なにか占いと思われがちですが、本来は時と兆しの専門書であり、また運命を宿命にすることなく、自分の存在、自分の生活、自分の仕事というものを創造していく立命の学問の書でもあります。易という字は、変化するという意味で、易とは人間、人生、生命などに関する維新の研究、維新の学問で、俗にいう運命を予言するようなものではないことを知ってもらいたいものです。

その基本が、変易・不易・易簡の3つで、易の三義といいます。最初の変易は、世の中のものはすべてが刻々と変化し、変わらないものは何一つないという意味です。一方で、その変化の仕方には、一定の不変の原則があります。これを不易といいます。例えば、春から夏、夏から秋・冬へと巡りますが、この変化の仕方は不変ですね。そして三つ目の易簡。逆にして簡易ともいっていますが、意味は、易しくて簡単、シンプルということです。すべてのものは変わる、そしてその変わり方には一定の不変の原則があって変わることがない。素直に世の中をあるいは大自然を見れば、すべてのものが教えてくれています。このように、私たちが素直に見て、素直に理解しようとしたら、人生や社会や経営にも応用するのは、シンプルで簡単ですよという教えです。

易経の中の一つに「乾為天」というのがあります。龍の話で、龍が6段階に変遷する教えです。最初は、潜龍。まだ実力が伴わない状態で、認められることがない時ですが、この時代は確乎不拔の精神を打ち立て、修養・修行・徳を身につけるときを言います。次に見龍。潜龍の時代に身につけた確乎不拔の志により、師となる人物を見つけ、基本を修養する段階です。次は、君子終日乾乾す。朝から夜まで前向きに積極的に努力を続け、夜にはこれでよかったか省みなさいと教えています。4段階目は躍龍。独自の世界を極め、兆しを見極め、時を判断して飛ぶ段階なのかを観ている段階です。そして飛龍。様々なことを実現して、社会に大いなる還元をしていく状態です。最後は亢龍。驕りのために失速する龍です。成功を極め、衰退していく段階です。このように、易経では64種類の時(萌し、兆し)が説明されている人間学の学問だということです。

時代は、大きく変わって来ました。10年ひと昔といいますが、いまや数年もひと昔といってもいいくらい凄いスピードで変化しています。世の中が凄いスピードで変化を繰り返すなかで、私たち「人」も変わってきました。時代に即した成長は不可欠なことはわかりますが、人としての根本的なことは変わってはいけないのではないのでしょうか。陰湿な事件一つを見ても、とても考えられなかった悲惨なことばかりです。時代の変化には、色々な要因が絡み合っていることですが、そこには人と競う・争うことに主体がおかれていることも否定出来ないような気がします。「花には清き香りあり、人それぞれに持ち味あり。」切磋琢磨はいいことですが、お互い人としての基本はいつまでも失うことなく、心穏やかな毎日を過ごしたいものですね。